

育英友の会会報 No.93	<h1>会報</h1>	発行者 児島 俊臣 編集者 松川 明義 発行所 育英友の会 〒162-8412 東京都新宿区市谷本村町 10-7 電話 03 (3269) 4261
		
2000年10月30日		

奨学生の集いに新しい風が吹く！

2000年度奨学生の集い

今年には日本育英会との間で共同開催された奨学生の集いがすべての地区で計画されました。北海道地区では火山活動のために見送りとなりましたが、その他の地区では今年も出会いと感動がうまれました。

奨学生の集いを終えて

近畿・四国地区 奨学生の集い 実行委員長 長岡 明伸

近畿・四国地区奨学生の集いは、8月5日(土)から7日(月)までの2泊3日の日程で、淡路島の国立淡路青年の家を会場に行われました。3日間とも好天に恵まれ、計画通り無事に3日間を終えることができました。

今年から新たに高校生が参加対象に加わりましたので、準備段階から多くの労力と戸惑いがありました。その努力の甲斐があつてか、昨年以上の100名を超える応募者があり、うれしい悲鳴というところでした。定員の問題で、参加奨学生は60名余りに落ち着きましたが、全員が初参加で初対面という設定は、まさに新鮮な感じがしました。

3日間の内容は、「語り合い」をテーマとして、討論とレクリエーションを交えながら進めました。討論では、班別の分散会で活発な議論が展開され、最終日の全体会で話し合いの結果を発表しました。友情など身近な話題が中心でしたが、自分の考えや夢をしっかりと持っている学生が多く頼もしい限りです。いっぽうレクリエーションでは、大人数のなか可能な限り多くの交流ができるように苦心しました。初日は、須藤先生(神戸市外大前学長)の有意義なご講演のあと、ゲームや自己紹介をとおしての交歓で緊張をほぐしました。2日目のカッター(ボート)研修では、海上に出て真夏の気持ち良い風を浴びました。夜はキャンプファイアを行い、各班の趣向を凝らしたスタンツ(寸劇)、全員が輪になってのダンスや歌で交流を深め、最後は1人ひとりが全員と握手で退場しました。最終日の退所後には近くの牧場で牛の乳搾りとバター作りを体験し、さらに思い出を深めて淡路島をあとにしました。

こうして3日間の集いを終えた学生たちは、多くの友情と体験と思い出を手にして、ひとまわり成長したようでした。当初心配していた高校生と大学生との垣根は以外にも低く、互いに良い刺激となったようです。

多くの人の協力と理解で集いが成功できたことに感謝します。

集いに参加して

九州地区 福岡大学 鈴木 香織

まずは、充実した3日間を過ごせた事をうれしく思っています。

湯布院という文字にひかれて、また学生時代にこういう集いに参加しておきたいと思い気軽に申し込んだこの「奨学生の集い」でしたが、思ったよりたくさんの手作りの計画が盛りこまれていて、おかげで楽しく勉強になる体験をさせて頂きました。

同じ分科会の人みんなそれぞれ全然違うキャラクターでしたが、新鮮で話を聞くのは面白かったです。

特に全員はきはき物を言う人だったので、思ったよりずいぶん早く打ち解けることができました。

討論会は窮屈なものになるのかなと思いましたが皆の熱心な意見にこちらも真剣に聞き入ってしまい、十人十色の考え方を承知してながらも再認識させられました。

とにかくこの会に参加して、たくさんの人と一緒に活動することの楽しさを久々実感しました。踊ったり歌ったり少々恥ずかしいなあと思いましたが、こういう場所ならではの出来た事だと思います。

ありがとうございました。



(近畿・四国地区)

「小泉八雲を通して21世紀を考える」

島根女子短期大学講師 小泉 凡 氏

小泉八雲 Patrick Lafcadio Hearn は背が低く、左目は失明し、目は茶色と西欧世界で生きるために劣等感を抱くハンデをもっていた。Patrick はアイルランド系の名、Lafcadio はギリシャの島の名前に由来し、Hearn はラテン語でさまようという意味を持つ。

大江健三郎氏によると、「ノーベル賞は時代の流れの中で、どの地域の文学が注目されているか」が大切なので、近年の例を見ると、最近にわかに注目されるようになった国・地域から受賞者が連続していることがわかるという。すなわち、氏の前では、カリブ海---->日本---->アイルランドの順であった。

ハーンが最近注目されてきたのも時代の流れに何かもたらずものがあるのであろう。彼自身はアイルランド人（ギリシャ人との混血）で、明治29年にセツと結婚する前、カリブ海に2年半過ごして、異文化体験が大きかったようであり、自分のルーツを考えたことであろう。つまり、ハーンが人生において最も重要な異文化体験をした地域と近年のノーベル文学受賞者の出身地が一致するのである。

話しのキーワードとして、「周縁性」がある。アイルランドはヨーロッパ大陸から追われたケルト人が住み着いた国で、酒と詩を愛する国民性をもつ、20世紀に、W. B. イェーツなど4名のノーベル賞受賞者を輩出している。ヨーロッパ内では後進国で西の端にある国ではあるが、最近では観光客が押し寄せ、Celtic tiger といわれるほどに経済的に成長が著しい。

アイルランド人はアメリカ、ニュージーランドなどへ移民として多くが出ており、民族の考えの根底には、「輪廻転生」とか「靈魂不滅」など、日本と思想面での類似性がある。ハローウイーンなども、日本の盆と同じように、先祖の墓参りの後にキャンドルに火を付けて先祖に返ってきて欲しいと願うことにある。ケルト人の輪廻を表す組み紐はアイルランドの曼陀羅であり、キリスト教とは異なる死生観をもっている。彼はアイルランドで余りよい思い出がないが、このような心の一致点があったため、鳥取の浜村温泉で盆を過ごしたとき、ケルトの子守歌を夢み、子どもの頃によく見た幻を思い出したために、怪談を書き始めたようである。アイルランドとの生活環境の類似性もあったのである。

松江から熊本に赴任したハーンは、セツに「全ての財産を贈る」との遺書を書き、サインに、それまで厭がってい

た Patrick を初めて使った。

今1つのキーワードは、「Creole」（ポルトガル語でつくり出すの意）で、カリブ海文化を象徴する混血文化である。1600年代から植民地になって、多くの黒人が入って来たため、カリブの人はほとんど混血で、言葉も混血になった。先住民の言葉が消え、ヨーロッパ人が入り、黒人が入った結果、部族の違いによってコミュニケーションのできない黒人の間で、鞭をもった白人の威張った、省略した独特の言葉が共通化してきた。これがクレオール語である。

ハーンはカリブのマルティニーク島（フランス領）で、言葉の採取などのフィールドワークを2年半行ったが、若き日のゴーギャンもほぼ同じ地にすんでおり、両名ともこの地を気に入っている。ハーンは地の人に共感を覚え、文学性に富んだ民俗誌を書いている。

カリブでは97%が混血で、人種差別がなく、それを誇りとし、自信に思い、アイデンティティーの確立がなされている。フランスでは、Creole は方言として卑しめられていたが、ミッテラン政権以後は学校教育で教えるようになり、「Creole 性を大事にすること」、マルティニーク島では混ざり合いをもつことが重要であることが再評価された。

自分の名前の「凡」の由来は、ボナー・フェラーズにちなんで、祖父（一雄）がつけた。彼はマッカーサー（MacArthur. Mac はアイルランド系の名前）の腹心の部下で、天皇制を残すことを進言した人で、日本人の素朴な自然崇拜による天皇への自然な気持ちを説いたようである。

周縁性とは、地域と関連、地方の時代と関連するか？21世紀文化は「周縁の地」を中心にすえることになるのではないか？

「欲望」をもった日本は滅びると、ハーンは100年後の日本を予測したが、漱石も同じことを言っている。物質文明に満たされた時代は21世紀にそんなに必要であろうか？

豊かさの尺度は物質ではなく、精神になる必要がある。ポテトサラダのように、押さえつけられたものはダメになる世紀になるのではないか。サラダボールのように、そこに添えられたそれぞれが個性をもって混ざりあっている世界こそ望ましい。

「Creole」の世界はそれに近い。

集いを終えて

東海地区 愛知淑徳大学 廣澤 晶子

私はこの奨学生の集いに参加できたことを大変うれしく思います。普段私たちは、自分と似た考えを持つ仲間から抜け出て、違った価値観を持つ人たちと話す機会などそうあるものではありません。しかし、この集いで自分とは異なった意見を持つ人たちと話しをすることで、自分の視野を広げることができました。

私はこの集いに一人で参加したのですが、前日まで本当に一人で大丈夫かといった心配をしていました。しかし、当日は簡単に順応できたように思います。集いのなかには、「分散会」と「テーマトーク」と呼ばれる話合いがあり、私のなかではとても重要な経験になっています。特に、私の参加したテーマトークでは「仕事・アルバイト」が主題だったので参考になるいろいろな意見を聞かせてもらい、たいへん心に残るものがありました。私は大学で選考するコースの第一期生であるため、卒業後の就職に強い不安を覚えます。もし、一期生でなければ、過去のデータを見たり、先輩に聞いたりできますが、私にはそれができません。さらに、私が通っている大学は文系ですが、専攻したいコースは、一般に理系の分野にあたるものです。だからこそ、理系の大学や就職した社会人の方々の話しやアドバイスは、私にとって大切な知識になりました。

集いに参加して、人と話をすることは自分の視野を広げることになるのだと、再認識しました。もし来年もまたこのような集いがあるなら、ぜひ参加したいです。そして、今年よりもさらに多くのことを学びとっていきたいと思います。



(九州地区)

2000年度奨学生の集い(共同開催)

開催地区	開催日	会場
北海道	中止	道立洞爺少年自然の家
東北	7/28(金)~7/30(日)	国立花山少年自然の家
関東	8/ 5(土)~8/ 7(月)	国立赤城青年の家
北信越	8/ 4(金)~8/ 6(日)	国立能登青年の家
東海	8/11(金)~8/13(日)	愛知県立美浜少年自然の家
近畿・四国	8/ 5(土)~8/ 7(月)	国立淡路青年の家
中国	8/ 4(金)~8/ 6(日)	中国・四国地区国立大学 大山共同研修所
九州	8/18(金)~8/20(日)	大分県立湯布院青年の家



(中国地区)

話すこと、聞くこと

北信越地区 サブコンピューター 森 優子

暑い暑い中、みんなご苦労様でした。

みんなに何が一番面白かったかと聞くと、大体オリエンテーションとの答えだけれど、私としては、みんなにとって一番貴重だったのは、最も時間を費やしたグループトークだったと思います。今回のように、自分の夢について、自分の家庭について、環境問題について、学校や大学でどのくらい話をしたことがありますか。

他の人と議論をすることはとても大事なことです。まずは話すこと。自分の考え・想いを的確な言葉で表すことはとても難しいことです。だからこそ話をすることにより表現力がつく、言葉にすることによって初めて自分の言いたかったことが整理される、積極的に話そうとすると情報に対して積極的にになれるのです。

そして聞くこと。人の話を聞くこともまた難しい。次に何を話そうかと考えることに精一杯で、他の人の話を聞いていないことってありません？傍から見ると、お互いが自分のこと言っぱなしで終わっているだけです。

本来ならば相手の言葉に耳を傾け、理解し、それを受けて自分の意見を言うというのが理想の形。そんな会話ができたら、充実した時間ができる、もっと「物の理解・人の理解」ができるようになります。だからみんなにもこれからのいろんな機会を見つけて議論をしていってほしいなと思っています。

今回の集いも、初めて会った者同士の共同生活だったけれど、グループトークを通じて、お互い特別な存在となったのではないのでしょうか。実行委員としてまた私個人として、みんながそう思えたらいいなと思います。



(近畿・四国地区)

大会報告

2000年5月27～28日、日本育英会会議室において大会が開催されました。

1999年度活動報告

1. 総務関係
 - (1)大会・理事会・地区協議会の開催
 - (2)新入会員に「礼状」「育英」「会報」等を送付
1999年度入会 3,986名、累計 745,693名
 - (3)育英友の役員名簿の作成
 - (4)電子情報管理部の運用
2. 事業関係
 - (1)奨学生の集いを日本育英会と共同開催
 - (2)入学支度金融貸付制度を3県で実施
和歌山 27名・愛媛 17名・大分 35名
 - (3)宿泊施設との契約(58施設)
 - (4)修学支援制度の適用事例なし
3. 広報関係
 - (1)会報発行 90号(5/20)、91号(10/30)
 - (2)育英友の会賞 チャレンジ21 最優秀者3名
 - (3)育英友の会のしおり 16万部作成・配布
4. 支部関係
 - (1)20支部から活動報告、13地区で地区報発行
5. 財務関係
 - (1)1999年度決算報告
 - (2)寄付 1999年度末 1,626,000円

2000年度活動計画

1. 総務関係
 - (1)規定の改定
 - (2)学校訪問の実施
 - (3)電子情報管理部の継続運用
2. 事業関係
 - (1)入学支度金融貸付の継続(3県)
 - (2)宿泊施設との契約
 - (3)奨学生の集いの共同開催(全国8地区)
 - (4)修学支援金制度の新規加入停止
3. 広報関係
 - (1)会報の発行
 - (2)育英友の会のしおり 満期者全員に配布
 - (3)育英友の会賞 チャレンジ21 最優秀賞への副賞授与
 - (4)支部報の発行
4. 支部関係
 - (1)新支部制度の導入
5. 財務関係
 - (1)寄付金依頼中止に伴う財務体質の改善
6. 調査・管理関係
 - (1)入学支度金の採用状況および入出金の確認

ホームページとメーリングリスト

育英友の会の情報を満載したホームページをオープンしています。またメーリングリストは様々な職業・年代の会員との情報交換にご利用下さい。会報の購読者は無料で参加できます。

ホームページ

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~itomo/index.htm>

メーリングリスト申込先

ikuei-tomo-ml-request@pmb.biglobe.ne.jp

連絡費の納入方法

住所・氏名・電話番号を明記のうえ、下記のどちらかの方法でお支払いください。まとめ払いも可能です。

連絡費 1,000円(2年分)

(1)金額分の切手を(左下)に郵送

(2)郵便振替にて

「00150-4-86889 育英友の会」まで

住所氏名の変更について

最近、「会報」が宛先不明で返送されてくるケースが増えています。皆様のお手元まで「会報」を正確にお届けするため、以下の場合には、すみやかにご連絡ください。

- ・転居をされる場合
- ・改姓をされる場合
- ・封筒表記の住所が正しくない場合

右の変更届をコピーして、ハガキ等に添付のうえ、下記まで郵送願います。

〒162-8412 東京都新宿区市谷本村町 10-7

日本育英会広報課内
育英友の会事務局

住所氏名変更届

氏名 (旧姓)	
旧住所	〒 TEL ()
新住所	〒 TEL ()